

小学校におけるキャリア教育をめぐる
9つの疑問にお答えします



自分に気付き、
未来を築く
キャリア教育

小学校におけるキャリア教育推進のために



国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成21年3月

6 職場見学などの体験活動をするのがキャリア教育ですか？

いいえ、そうではありません。
体験活動はキャリア教育を推進する取組の一つとして位置付けられます。キャリア教育は、教育活動全体を通じて、将来子どもたちが社会の一員としての責任を担い、社会的な自己実現を図ろうとする意欲や態度を継続的に育てていくものです。
体験活動には、達成感や満足感を得ることによる自信や

自己有用感の獲得、働くことや学ぶことへの意欲の向上など様々な効果が期待できます。
その効果を発揮させるためには、体験活動を一過性のものに終わらせるのではなく、ねらいを明確にして、他の教育活動と関連付けたり、事前事後の指導を工夫したりすることが重要です。

7 キャリア教育のねらいは4つの能力（人間関係形成能力、情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力）を伸ばすことでしょうか？

これら4つの能力は、一般的に、社会的自立を図る上で必要な能力であると考えられ、発達段階を追って育成されるものです。これらは、キャリア教育を通して身に付けさせる様々な能力の重要な例としてとらえることができます。

各学校では、これら4つの能力を参考にしながら、学校や地域の特性、子どもたちの実情に応じて、身に付けさせる能力を検討することが大切です。検討の結果について学校全体で共通理解を図ることにより、効果的にキャリア教育を進めることができるはずで

8 キャリア教育の評価はどうすればよいですか？

二通り考えられます。
育 たい資質や能力、態度を意識しながら「子どもの変容・成長」を評価すること、そして、それに基づいて「活動そのもの」を評価することです。
前者については、まず教師が一人一人の育ちをしっかりと見取っていくことが大切です。ポートフォリオやアンケート、評価カード等を工夫しながら、一人一人のよさや変容

を把握し、その結果はできるだけ子どもに返していきたいものです。また、自己評価によって子ども自身が自らの成長を実感できるようにすることも大切です。
後者については、このような子どもの成長を促した要因は何か、あるいは、成長に結び付かなかった理由は何かに焦点を当てながら実践を振り返り、キャリア教育の取組をPDCAサイクルの中で改善していくことが必要です。

9 私が勤務する学校ではまだキャリア教育に取り組んだことがありません。キャリア教育はどのように始めたらよいですか？

まずは、一人一人の先生方がキャリア教育を正しく理解することから始めましょう。そのためにも、このパンフレットを職員会議や学年会などで是非活用してください。そして、学校全体でキャリア教育に対する共通理解を図り、それを基に、担当学年や各教科等において、どのようにキャリア教育に取り組めるかを検討し、でき

ることから実践に移してください。
キャリア教育は、目新しいことからスタートさせる必要はありません。各学校での教育活動をキャリア教育の視点でとらえ直し、積極的に取り組んでいきましょう。国立教育政策研究所・生徒指導研究センターのホームページに掲載の実践事例なども是非参考にしてください。

【作成協力委員】 ※職名は平成21年3月1日現在

小川信治 神奈川県川崎市立荻宿小学校教諭
川崎友嗣 関西大学社会学部教授
佐々木敬朗 千葉県千葉市立幕張本郷中学校教諭
塚田薫 茨城県城里町立环小学校教諭
冨本保明 東京都品川区立小中一貫校伊藤学園教諭

西田健次郎 兵庫県教育委員会義務教育課指導主事
二見明子 神奈川県大和市教育委員会教育研究所指導主事
谷内口まゆみ 富山県氷見市立宇波小学校教頭
和田るみ子 岐阜県岐阜市立早田小学校教諭
渡辺三枝子 筑波大学特任教授（キャリア支援室長）

（敬称略・五十音順）